

申請者名：群馬県産 2×4 材販路拡大グループ、品目：製材

1. 輸出における現状と課題

【現状】

群馬県では、スギの蓄積量が針葉樹全体の約6割を占め、その量は年々増加していることから、この豊富な森林資源の利用拡大が課題となっている。一方、新設住宅着工戸数は減少傾向にあり、スギの主な用途である建築用材としての利用増加は見込めない。このため、新たな需要として、米国向けの外構材（フェンス材）製品の輸出を2018年から開始。輸出量、輸出額共に年々増加しており、今後更なる需要拡大を目指す。

【課題】

- 輸出用製材品に適した原木の素材生産量増加と製材工場への安定供給
- 現状の製材工場の設備や体制では、大幅な増産に対応できない

2. 輸出事業計画の取組内容

【素材牛産】

現在、近隣の複数の森林組合を中心に、県内一円で輸出用原木を製材工場へ直送する体制を構築しているが、今後は県内素材生産業者にも働きかけて連携を図り、安定的な原木供給を図る。

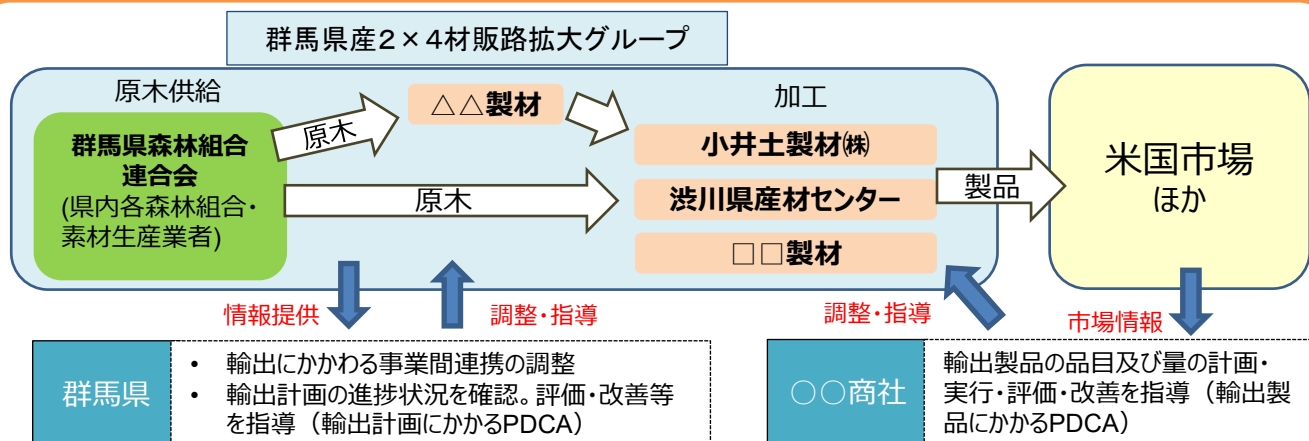
【加丁】

- ① 取組に参画する一次加工工場数の増加
- ② 一次加工工場及び中核工場の設備強化を図り、生産量の増加を図る

【流通・販売】

- ① 既製品の生産量を増やすほか、現地ニーズを元に新たな規格の製品を生産
- ② 外構材以外の用途の製品や米国以外の輸出先の可能性について、従来から取引のある商社及び新たな商社などと情報交換・検討を行いながら、新たな販路の開拓及び拡大を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	輸出額	輸出量	輸出先国
令和2年実績	70,000千円	1,650m³	米国
令和9年目標	170,000千円	4,000m³	米国、カナダほか